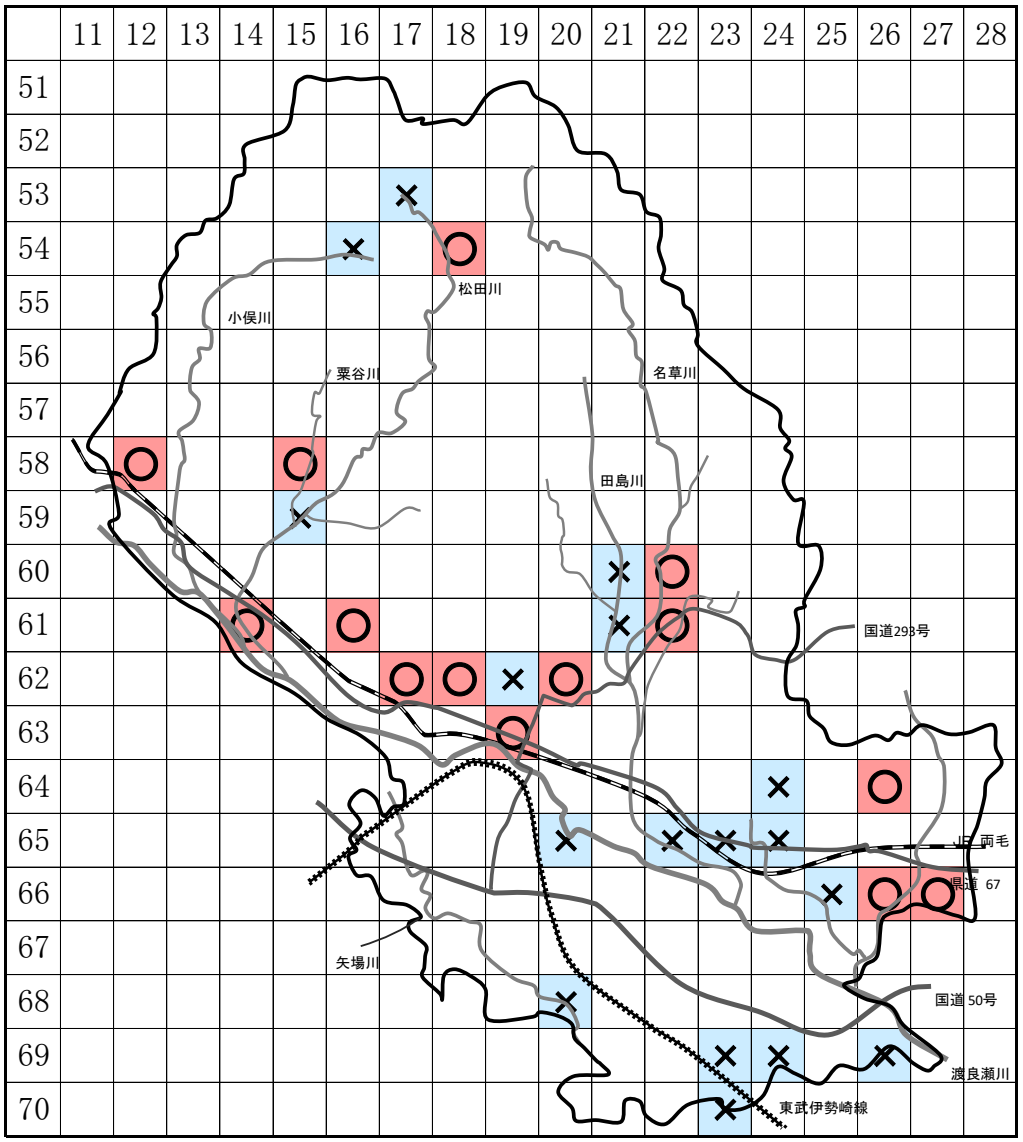
Ⅱ　調　　査　　結　　果

1　身近な生き物調査結果

アオバズク	確認数：14 メッシュ 報告数：31 メッシュ 2019年度 20/55　2018年度 12/48

※過年度　確認数/報告数



ハトぐらいの大きさでフクロウの仲間。青葉の茂る頃に飛来する夏鳥である。胸から腹にかけてまだら模様であるが、全体的にこげ茶色である。神社や寺、公園などの林で、日中はほとんど動かないが、夜になると蛾やその他の昆虫をねらって活動する。よくとおる声で「ホッホー、ホッホー」と鳴き続ける。

観察適期
5月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

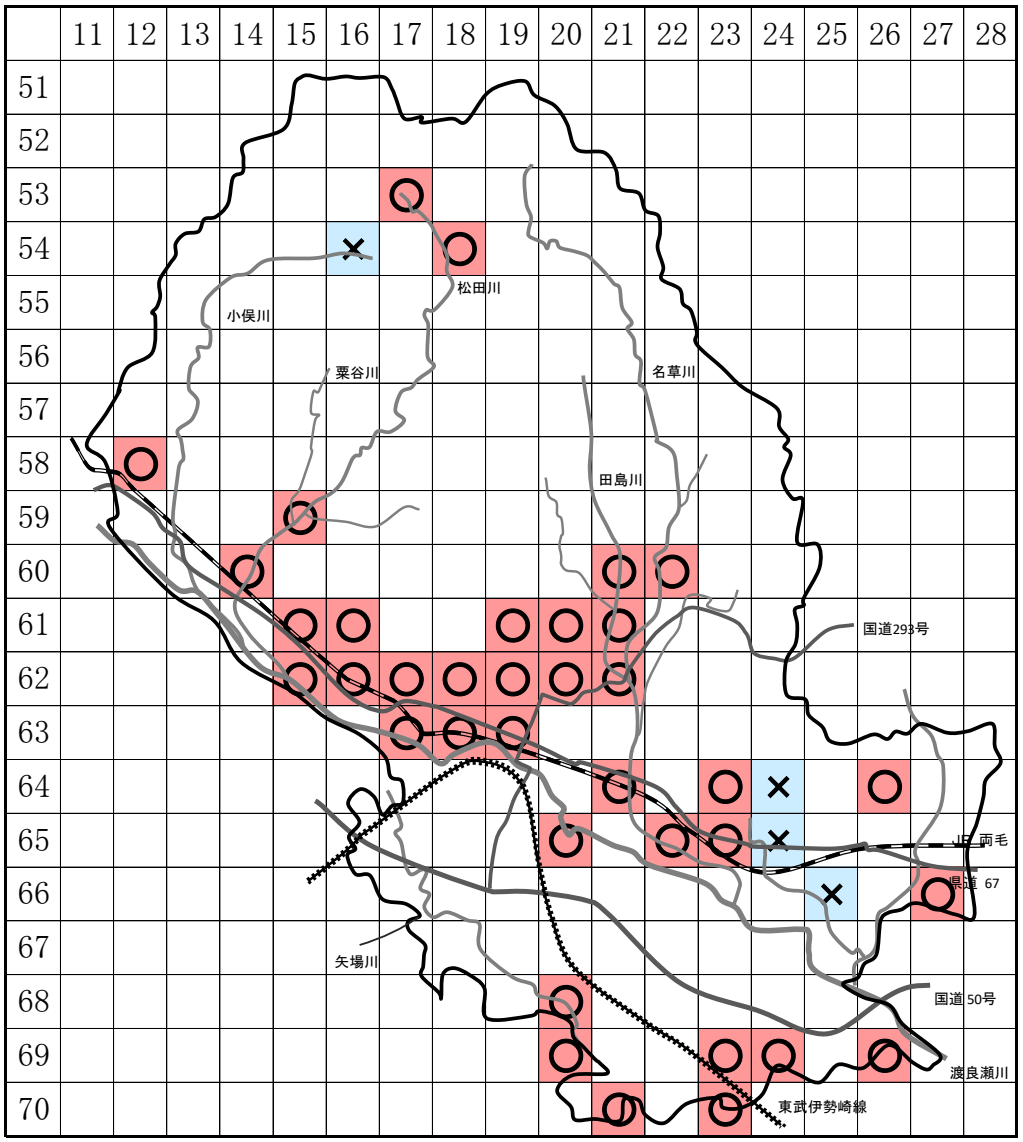
調　査　結　果

昨年と比べ確認数が６メッシュ減りました。河南地域の発見報告は残念ながらありませんでした。巣作りに必要な大木、特に穴や割れ目のある木が無いせいだと思われます。対して河北地域からの報告は順調でした。アオバズクは住み着けばそこで夕暮れから夜間にかけて特徴のある声で長く鳴き続けるので、姿は見られなくても耳による識別は容易です。本当に貴重な種類でもあるので多くの方たちに関心を持ってほしい野鳥です。

シジュウカラ

確認数：	36 メッシュ
報告数：	40 メッシュ
2019年度 33/56	2018年度 41/53

※過年度　確認数/報告数



スズメぐらいの大きさで、林や樹木のある公園などで普通に見られる。頭が黒く、ほおが白く、のどから腹にかけて黒いネクタイをしているように見える。背中は灰色で緑がかっている。「ツツピー、ツツピー」とさえずり、「チーチー、ジュクジュク」とも鳴く。とても動きが速く、時々庭にも現れる。

観察適期
年　間

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

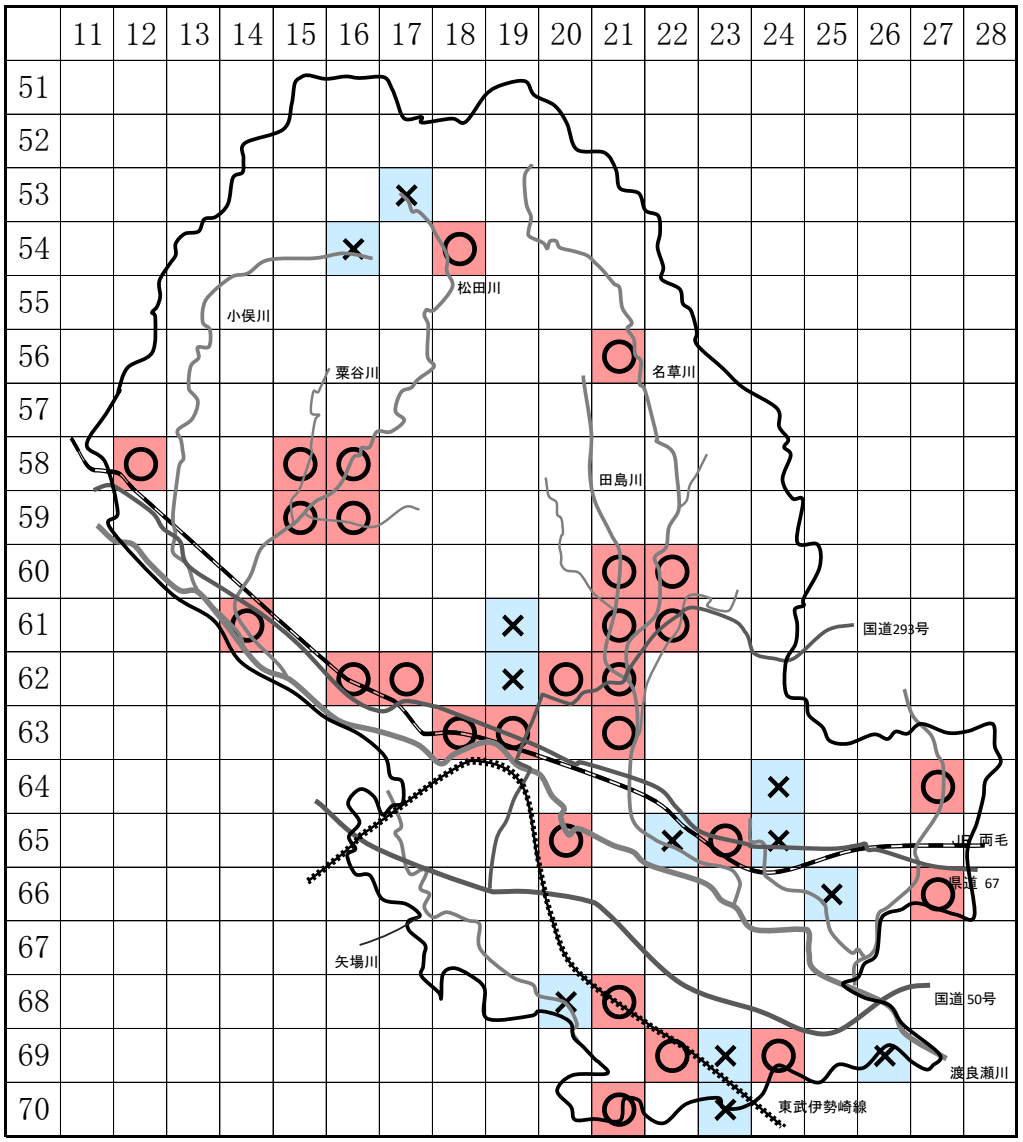
調　査　結　果

樹木のほとんど無い市街地や広い水田には飛来しませんが、昔から多くの人たちに親しまれています。河北地域の多くのメッシュで発見報告がありました。胸の黒いタテの帯、澄んだ鳴き声はかわいらしく、大きな特徴です。

カ　ワ　セ　ミ

確　認　数　：	27　メッシュ
報　告　数　：	39　メッシュ
2019年度　31/56	2018年度　31/54

※過年度　確認数/報告数



スズメよりやや大きい。くちばしが長く背中がコバルトブルーで、腹がオレンジ色の美しい鳥である。水辺に生息し、木の枝やクイに止まって小魚をねらい、ダイビングして捕らえる。水面すれすれに直線的に飛び、「チーッ」あるいは「ツイー」と自転車のブレーキ音のような声で鳴く。

観察適期
年　間

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

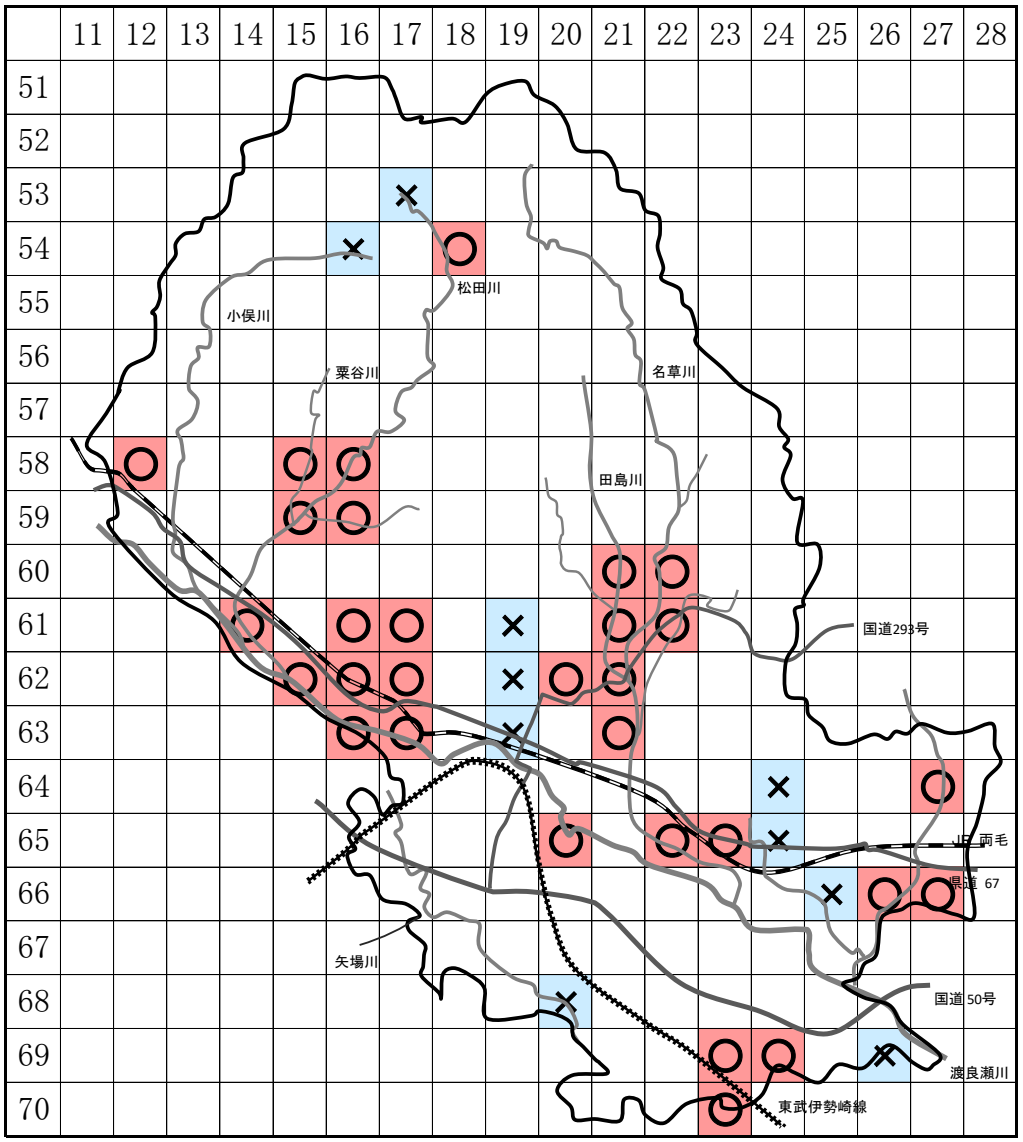
調　査　結　果

野鳥に詳しい友人から「カワセミが少なくなったね」と何度も聞く昨今ですが、レポーターの皆さんから意外にもたくさんの発見報告が寄せられました。確認率は69%にもなります。野鳥に関心を持っている方がひときわ美しいこのカワセミに特別な魅力を感じている証とも受け取れます。池や小川や水田を美しく維持すればまだまだ将来の希望につながると思います。

オオヨシキリ

確認数：	30 メッシュ
報告数：	40 メッシュ
2019年度 23/57	2018年度 32/53

※過年度　確認数/報告数



スズメより大きい夏鳥で、4月末から5月にかけて、水辺の開けたヨシ原（アシ原）に飛来する。背中が褐色、胸から腹にかけて淡褐色の目立たない鳥である。見通しのよい、ほぼ決まった場所で「ギョギョシ、ギョギョシ」と大きな声で鳴き続けるが、8月になるとほとんど鳴かなくなる。

観察適期
5月～8月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調査結果

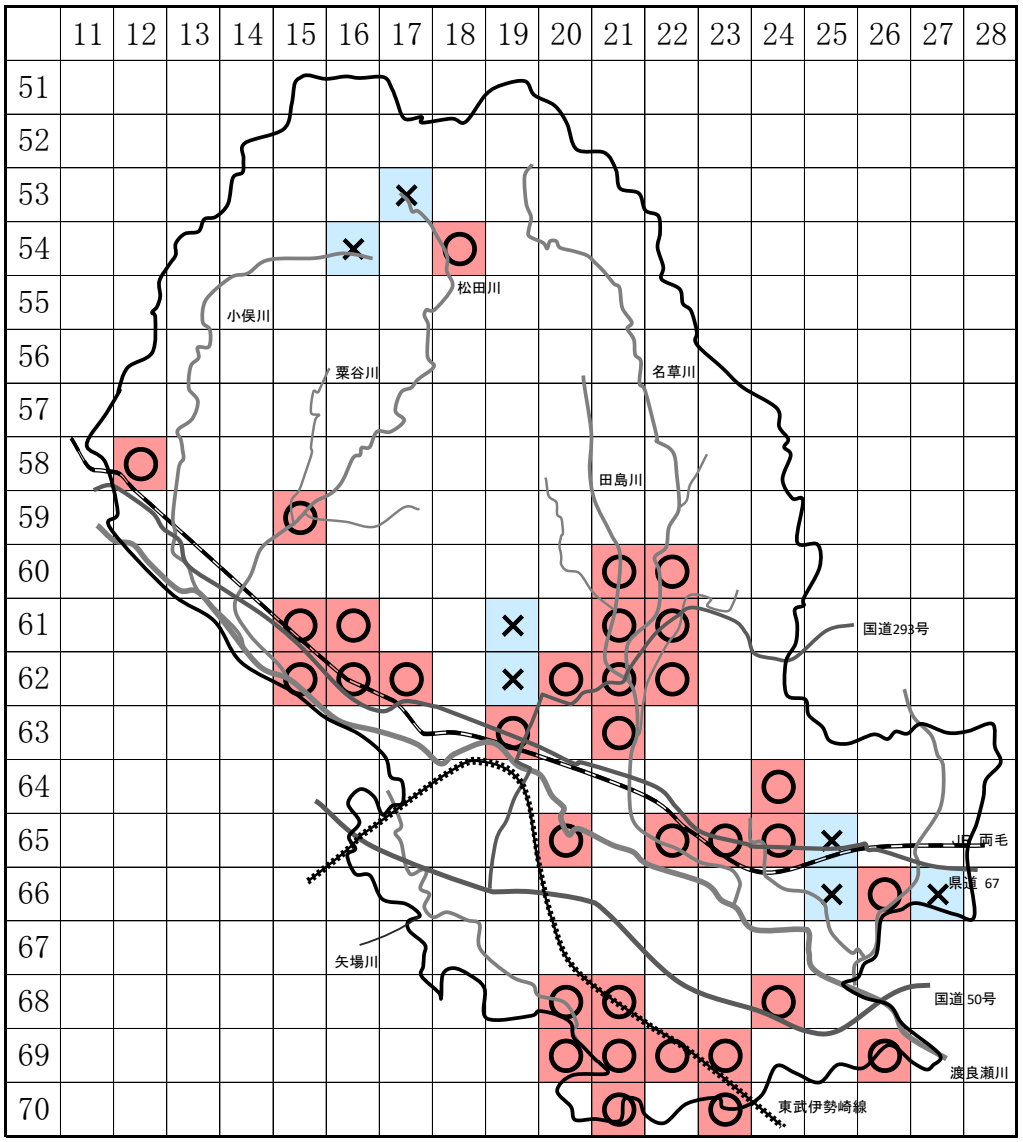
特徴のある大きな声で、しかも長時間鳴き続けるので昔から多くの人たちに知られています。人家の多い地域、ヨシ原の無い地域には生息しません。広い河原や休耕地になってヨシの茂っている地域に焦点を絞って調査すれば、思いがけない発見があると思います。

コ　サ　ギ

確認数：	33	メッシュ
報告数：	40	メッシュ

2019年度　40/56　　2018年度　33/52

※過年度　確認数/報告数



カラスよりもやや大きく、四季を通して見られる普通の白サギである。くちばしが黒く、白サギ類の中ではコサギだけが足指が黄色である。川や沼、水田、湿地などで小魚やアメリカザリガニ、カエルなどを捕らえる。

観察適期
年　間

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

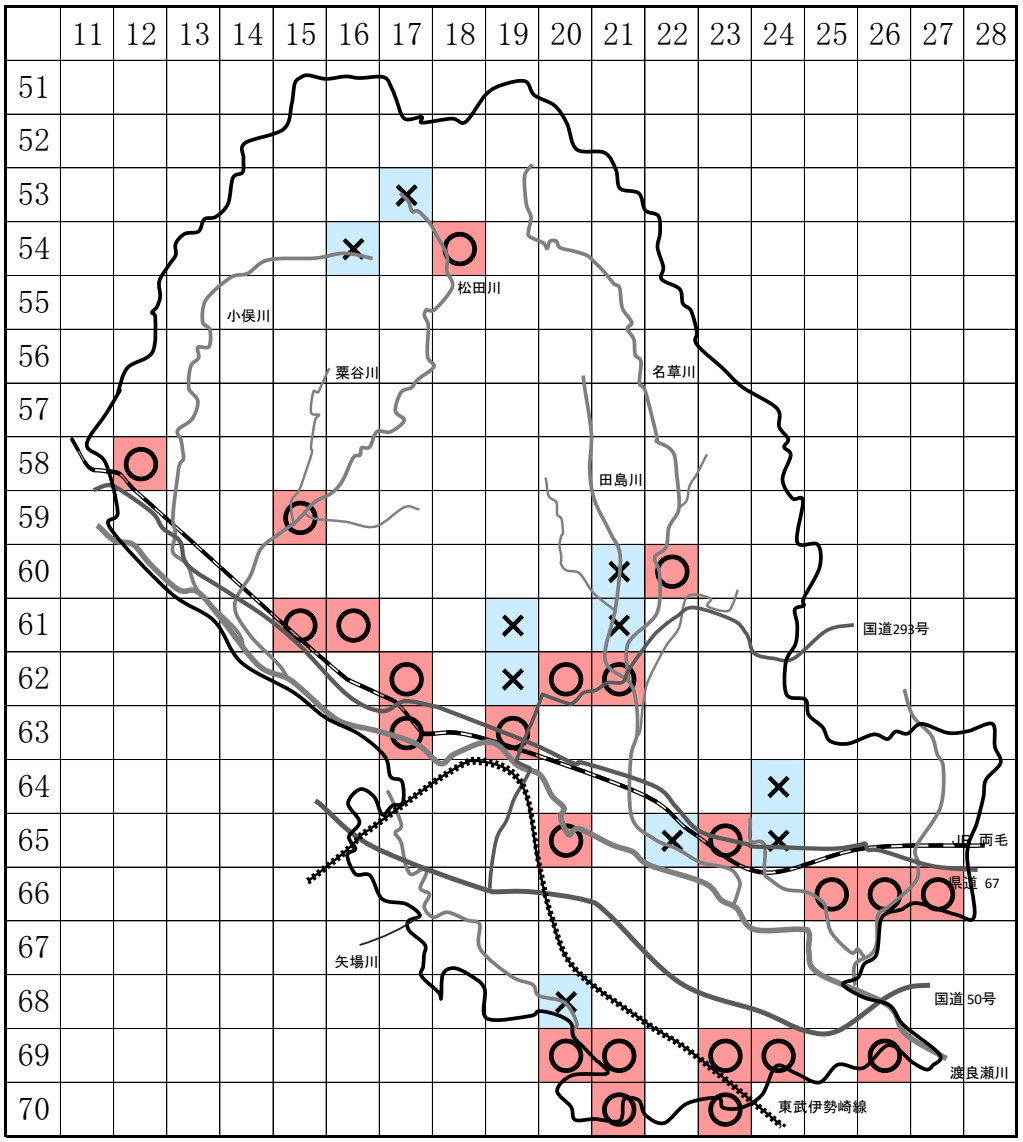
調　査　結　果

昨年より確認メッシュ数が減少したものの、確認率は10%あまり上昇しました。河北・河南地域とも安定しており平野部で多く確認されています。ただ、コサギ、チュウサギ、ダイサギの識別が難しいので、レポーターの方たちも誤って認識している例ももしかしたらあるかもしれません。

ヒ　バ　リ

確認数：	23	メッシュ
報告数：	33	メッシュ
2019年度 27/54	2018年度 32/50	

※過年度　確認数/報告数



スズメより少し大きく、広々とした河原や農耕地などにすむ。色はスズメより少し淡い褐色だが模様は似ている。早春から大空高く舞い上がり、宙に留まりながら「ピーチュク、ピーチュク」と長く鳴き続ける。地上では頭の羽毛を立てている時が多く、虫や草の種子をあさっている。

観察適期
年　間

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調　査　結　果

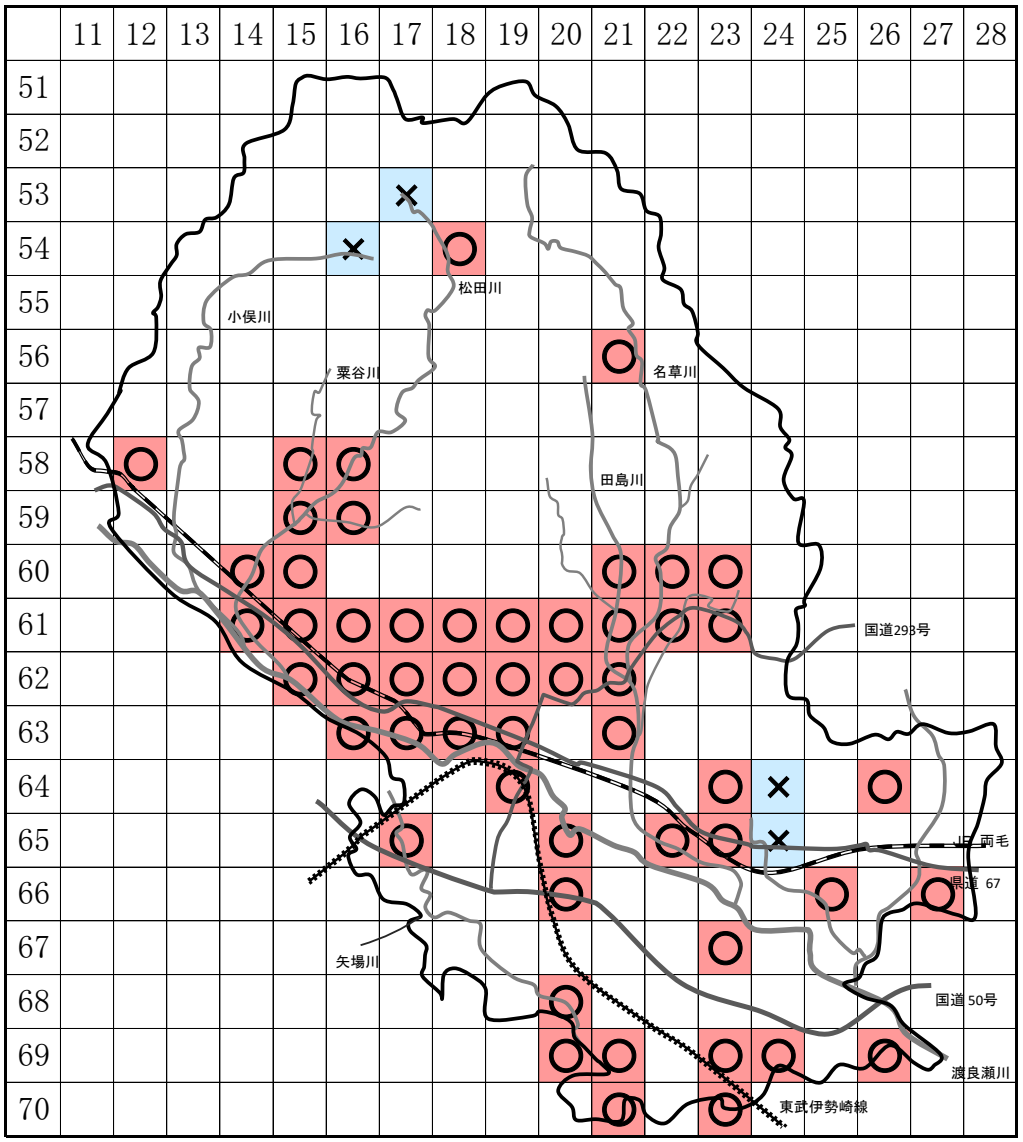
市街地を除く河北・河南地域の平野部に変わりなく生息しているようです。特に渡良瀬川流域の河川敷や草原に多く、矢場川下流部、筑波地区周辺も確認数は例年通り安定しています。空の高きに留まりながら特徴のある声で鳴き続けるので識別は容易です。

ツ　バ　メ

確認数：	53	メッシュ
報告数：	57	メッシュ

2019年度　70/71　　2018年度　64/67

※過年度　確認数/報告数



人々に愛され、親しまれてきた夏鳥である。のどが赤茶色で背中が黒く、尾は長く二つに分かれている。毎年3月末から4月にかけて飛来し、軒先に土で巣を作り繁殖し、9月ごろ南へ渡っていく。

ツバメに似た、腰の白いイワツバメや、腰が茶色のコシアカツバメも見られるので、注意して観察しよう。

観察適期
4月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

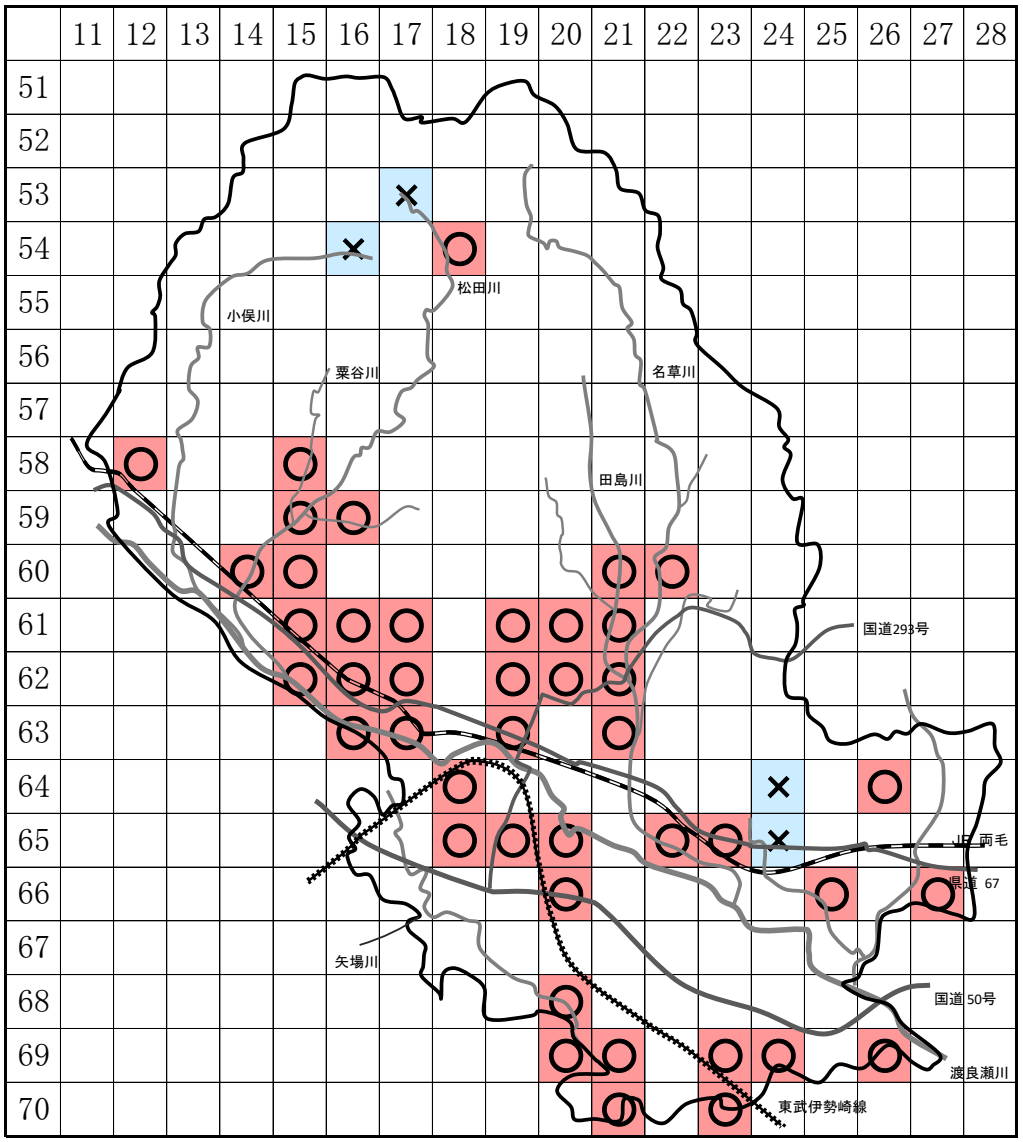
調　査　結　果

昔から人々に愛され親しまれているので見誤ることはまずありません。市内平野部ではごく普通に見られる小鳥です。人が住んでいるところにツバメは巣を構えます。人がいなければその地域には生息しません。山間部、森林帯では見られない鳥と思っていいでしょう。近年、カラスの増加でヒナや卵が襲われる例が珍しくありません。温かい目で見守りましょう。

オ　ナ　ガ

確認数：	43	メッシュ
報告数：	47	メッシュ
2019年度 42/59	2018年度 35/54	

※過年度　確認数/報告数



キジバトくらいの大きさで、頭が黒く、背中が灰色で、水色の尾羽が名前のとおり長いのが特徴である。樹の多い市街地や村落の樹上に巣を作り、昆虫や木の実を食べている。年中、「ゲーイ、ギュギュ」と鳴きながら、十数羽の集団で行動し、関東地方ではふつうに見られる。

観察適期
年　間

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調　査　結　果

カラスの仲間です。平野で樹木の点在する環境を好み、奥山ではほとんど見られません。スズメやカラス、ムクドリよりも生息数は少ないですが、市内では普通に見られる野鳥と思っていいでしょう。小さな群れを形成することが多いようです。